

### 1) 実現したいこと

水辺環境を必要とする生物種の生息環境をよりよいものにするのと、いきもの村来訪者が里山にできた水辺の生き物を観察できるようにすることを目的として、サブエリア2で、溜池用水の排水によって自然にできた湿地や水溜まりをいかした水辺環境の整備を行う。

### 2) 当面実施する活動の概要

- ・水辺環境の整備は、水辺の生物が安定的に生息できる池などをつくることを当面の目標とする。
- ・池づくりは人力による小規模なもの(水溜まり)から開始し、その後の状態の変化を見ながら水深、面積などの規模と形状、木材等での周囲の囲み方(観察路)等のあり方を順応的に検討していく。
- ・環境整備の優先順位として、土砂流入が少なく管理もしやすい「炭焼き小屋脇の湿地」の環境整備を優先し、余裕があれば、コブナ池において環境整備を行う予定。
- ・教育上効果的なものであれば、最小限の観察装置等の設置も今後検討する。

### 3) 昨年度(2014年度)までの活動状況・進捗・課題等

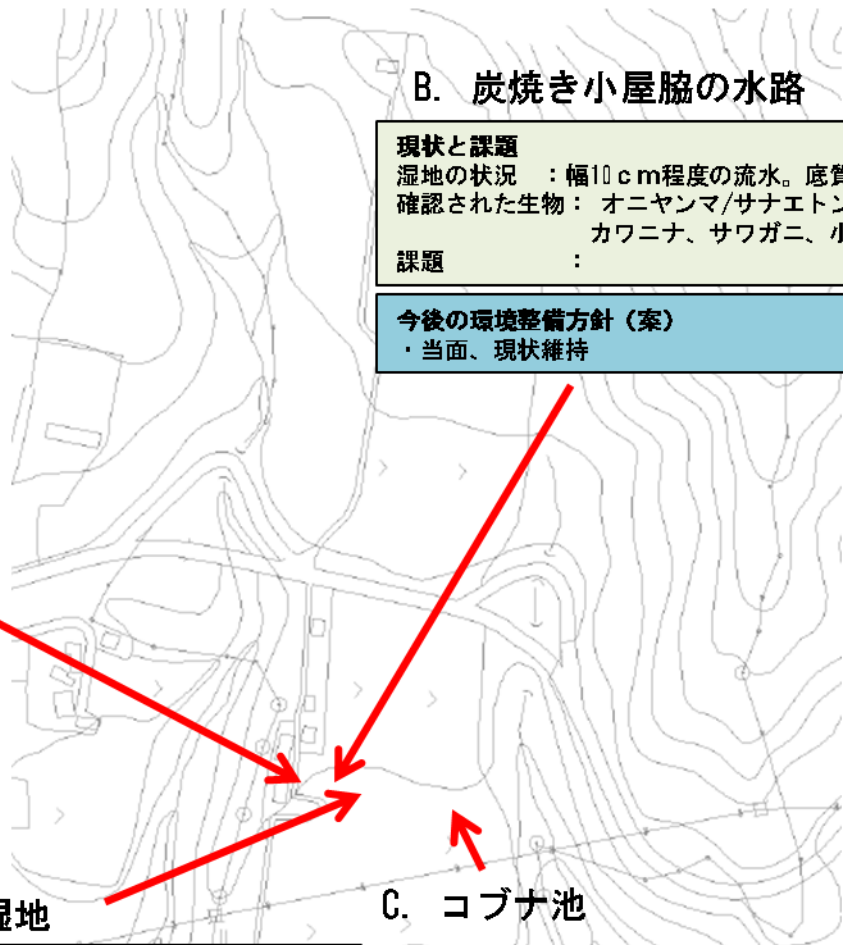
- ・2014年7月、9月に炭焼き小屋脇に穴を掘って新たに池を作った結果、9-11月にゲンゴロウ類やヤゴなどの水生昆虫の出現を確認。
- ・まだ池が小さく、埋まってしまうため、安定的な水辺環境を作ることが課題である。

### 4) 今年度(2015年度)の活動計画

- 4-12月 池の整備(手掘り)、水辺のいきもの調査。
- 6-7月 調査および記録フォームの作成、環境整備の基本設計図の作成。
- 7-8月 ホタル・モニタリング(夜間)
- 1-3月 評価と来年度の活動方針の検討。

以上

# いきもの村の水辺環境の現状と課題（2014年4月5日） 今後の管理方針（案）



## B. 炭焼き小屋脇の水路

**現状と課題**  
 湿地の状況：幅10cm程度の流水。底質は細かい砂礫と泥  
 確認された生物：オニヤンマ/サナエトンボspのヤゴ  
 カワニナ、サワガニ、小型トビケラ  
**課題**：

**今後の環境整備方針（案）**  
 ・当面、現状維持

## D. 防火水槽

## A. 炭焼き小屋脇の湿地

**現状と課題**  
 湿地の状況：小さい池（20cm×20cm）が2つ  
 周囲は湿地（5m×5m）  
 確認された生物：・小型ガムシ、小型カワゲラ  
**課題**：イノシシヌタ場あり

**今後の環境整備方針（案）**  
 ・水生生物が安定して定着できるよう、水辺環境をより安定的に維持することを目指して、池を作る  
 ・池の規模は、10m×10m内外。一部深い部分（50cm~1m）も作るが、全体的に水深を浅くする10~20cm程度。試掘して、透水性などを確認しながら、池の深さなどは現場で調整する。  
 ・観察しやすいよう、木道設置なども検討

## C. コブナ池

**現状と課題**  
 湿地の状況：池は土砂で埋まり、ほぼ流水のみ  
 周囲は湿地（5m×10m）  
 確認された生物：プラナリア、小型カワゲラ、小型トビケラ、ヤマアカガエル卵塊3つ  
**課題**：土砂流入多い、イノシシヌタ場が多い

**今後の環境整備方針（案）**  
 ・水生生物が安定して定着できるよう、水辺環境をより安定的に維持することを目指して、池を作る（ただし、Aの環境整備を優先させ、余裕ができたところで着手する）  
 ・20??然  
 ・観察しやすいよう、木道設置なども検討

## 昔のコブナ池（2010年頃撮影?）

